

ロシア沿海地方との交流について

平成23年7月

秋田県企画振興部学術国際局国際課

秋田県は、平成22年3月19日付けで、ロシア沿海地方と包括的友好協定を締結しました。

これは、前年の平成21年10月に、佐竹知事が沿海地方を経済分野のトップセールス目的で訪問した際に、知事同士の会談での合意に基づくものです。

これまでの交流の経緯を振り返りますと、平成4年6月29日には、県都の秋田市と、沿海地方の中心都市ウラジオストク市が友好提携を結んでおりました。市レベルでは、新潟に次いで2番目でした。

また、秋田県は、平成6年には外務省の対口技術支援事業を活用して、沿海地方の鉱業企業幹部達(ダリネゴルスク市内企業が中心)を招聘し、鉱業分野での公害防止策や経営活動などを紹介し、その交流を皮切りに、平成18年まで毎年鉱業分野での交流を継続し、ビジネスに結びつけるべく努力をしておりました。

原油や天然ガスの輸出でロシアが大幅黒字を毎年重ね、国内需要が高まったことにより、ロシア極東の資源は輸出に回すよりも国内向けに優先されるようになり、ビジネスの話は途切れてしまいましたが、平成19年からは、知事を団長として、秋田港と沿海地方内の港と定期航路を結ぶためのトップセールスをこれまで続けており、沿海地方知事セルゲイ・ダリキン氏と協議を続けておりました。

そのような下地があり、平成21年10月の知事会談で、友好提携に関する合意が成立したものです。その後、沿海地方との文案のやりとりを終えて、平成22年3月19日付けで署名に至ったものです。

こうした友好協定の締結後、平成22年5月には、前年の東京での日ロ知事会談の決定を踏まえ、モスクワで日ロ知事会議が開催され、帰路、ウラジオストクでは、沿海地方知事セルゲイ・ダリキンと会談を持ちました。

会談での席上、ダリキン知事から秋田県佐竹知事に対して、農業分野と医療分野での協力が欲しいとの申し入れがあり、秋田県では、協力できる内容を検討することとなりました。



沿海地方行政府との会談風景

農業分野における具体的な協力としてブドウ栽培とワイン醸造を行うこととしました。また、医療分野では、ロシア人はソ連時代からウオッカを飲み、塩分摂取量も多いことから、脳卒中が多く、一方秋田県も同様に脳卒中が多く、その脳卒中による死亡を減らすため、専門の医療機関「秋田脳血管研究センター」を持っていることから、当該センターの技術を習得させるような方向で協力することとなりました。



沿海地方立第一診療病院での意見交換後

まずは、沿海地方の農業(ブドウ栽培とワイン醸造)の実態や医療現場の実態を調査するため、平成22年8月初旬に農業分野視察団4名を派遣し、葡萄畑とワイン造りを視察しました。葡萄栽培については、インターネットで検索し、ブドウの種類や特徴について情報収集があらかじめできていました。また、ブドウ栽培の教本をCD化して販売しているサイトもあったので早速、現地の秋田県ビジネスサポートセンターを通じて、購入してもらい、現地の葡萄作りについて技術的なレベルを知ることができました。そのような準備をしてブドウ栽培現場を一日かけて視察しました。

店や大型スーパーで沿海地方産のワインはあるかどうか聞いて購入しようとしたのですが、ボトルに入っている多くはイタリアやスペイン産、フランス産で、ロシア産のワインは紙パックに入ったモスクワの南の地方産のもののみでした。結局沿海地方産のワインは市販されていないことがわかりました。従って、どのようなワイン造りをしているのか、沿海地方内でワイン造りをしているロシア人にとって聞くまでは状況が分からないということになりました。

当日、車で延々3時間ほど移動し、ワイン造りをする場所を見せてもらいましたが、日本からわざわざ視察団がくるということで、大勢の方々が集まっておりました。早速昼食会を兼ねた利き酒会を行いました。お陰で、どのような時期にどのような場所でどのような葡萄を使用して作ったかなど詳細を知ることができました。

これを踏まえ、平成23年度ではワイン造りのための技術協力を行うこととなりました。

医療現場の視察は、脳血管研究センター長と一緒にウラジオストク内の医療機関を2箇所視察しました。沿海地方行政のカウンターパートである担当部署経由で視察先をアレンジしてもらい、地方立専門医療サービスセンターと地方立第一診療病院を視察しました。

ロシア人医師達も海外での研修経験があるらしく、専門用語やディスカッションは英語を多用しておりましたので、研修は英語で行うことが可能と判断できました。そのため、平成23年度は、医師を2名受け入れて脳血管研究センターで研修を行うこととなりました。

最近のウラジオストクは2012年のAPEC開催準備のため、会場となるルースキー島を中心に空港や道路などインフラ整備が急ピッチで進められており、中央政府からの投資が大規模に行われている関係で、市場規模が縮小しつつあるロシア極東でも一人勝ちの様相を呈しています。こうしたことから、日本海側の各県が、発展著しいウラジオストクとの経済交流の拡大をめざしている状況にあります。

これまで秋田県は沿海地方に対して経済分野でリクエストを出す部分が多かったため、これからは相手側のリクエストに応えるよう努めることで、いっそうの協力関係の拡大を図っていきたいと考えています。